

2023.1.21 令和4年度 共に学び、生きる共生社会コンファレンス
実践研究「福祉×教育」

ふくし食堂

災害対応チャレンジバージョン！！

日向市地域福祉コーディネーター連絡会 成合進也

1. 障がい者の生涯学習推進の 基本的な視点

目指す社会像

「誰もが、障がいの有無にかかわらず、共に学び、生きる共生社会」

▷言い換えると、現在の状態は、目指す社会像ではないということ！

視点1 障がい者が、自立や社会参加に向け、
学び続けることのできる社会であること

視点2 障がい者が、健康で生きがいのある生活を追求することができ、
自らの個性や得意分野を活かして参加できる社会であること

2. 障がい者の生涯学習推進において、特に重視すべき視点

視点1 本人の主体的な学びの重視
当事者の想いを知らなければならない

「いつ、どこで、何を、誰から、どのように、学びたいのか？」

視点2 学校教育から卒業後における学びへの接続の円滑化

視点3 福祉、労働、医療等の分野の取り組みと学びの連携の強化

視点4 障がいに関する社会全体の理解の向上

「共に学び、共に生きる社会の実現のために…」

[実践プロセス]

福祉教育、地域福祉実践サイクル

地域の福祉力UP
地域共生社会実現

評価・検証の場
動く場(協働の場)
考える場(企画場)
つながる場
知る、学ぶ場
出合いの場

5. 活動分析・評価、仕組み化する！
活動効果検証、改善、システム化

4. 動く！ 動いて変える！
考えた「action plan」を実践する！ 動くことで変化！

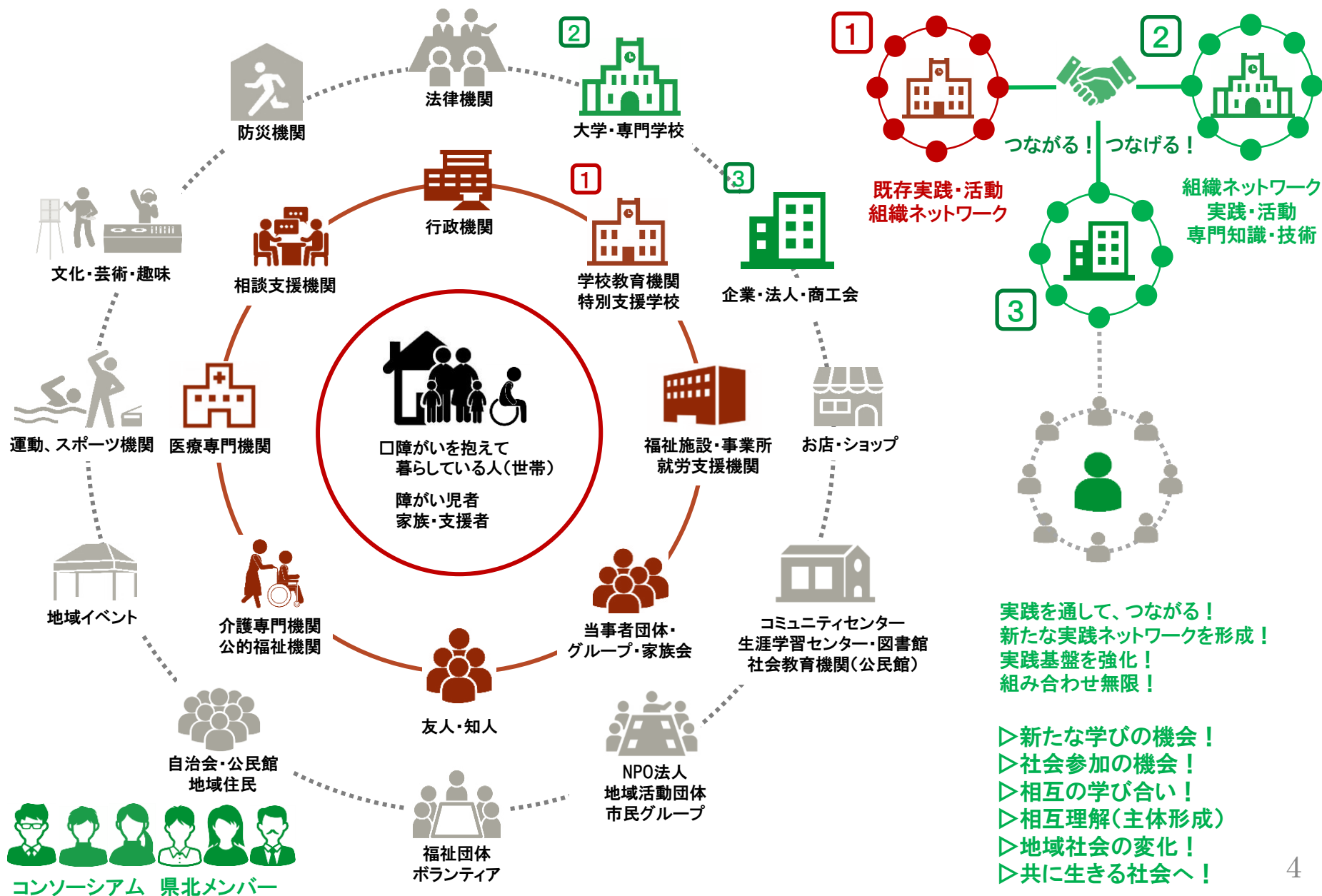
3. できることを考える！ よりよい地域生活のためにできることは？
課題解決のための「action plan」考える！ ※「だったらどうする？」

2. 地域を知る・理解する！ 暮している地域社会に興味・関心を持つ！
地域の現状(生活課題)について知る ※「我がごと」意識の醸成(主体形成)

1. ふくし(共生)について知る・学ぶ！ 「ふだんのくらしのしあわせ」追及
誰もが自分らしくしあわせに生きることについて学ぶ(考える) ※共に生きる！

Point:「誰かが」ではなく、「誰もが」主体的に学び、考え、動く！

実践プロセス(イメージ)



令和4年度 実践Step！

Step1 活動の仲間づくり(当事者、家族、支援者、多様な社会資源)

Step2 地域社会の現状を知る

Step3 当事者の想いを知る(障がい理解、他者理解)

▶ 出会いと対話をとおした双方向の学び合い

Step4 教育福祉を考える(学びの機会づくり) ※当事者参加

▶ 具体的な学びのプログラム作成

Step5 プログラム実施

[実践関係機関]

□日向市地域福祉コーディネーター連絡会

□日向市地域福祉サポーター連絡会

(ふくし食堂関係者)

□宮崎県立日向ひまわり支援学校

□日向市生涯学習課(社会教育関係者)

□九州保健福祉大学学生

(学生挑戦メンバー)

□コンソーシアム県北メンバー

□宮崎県教育庁生涯学習課



1. 宮崎県立ひまわり支援学校

(1)学校関係者に対する実践目的・目標の説明

(2)共同実践に向けての思い合わせ

▶ 学校教育活動の現状について知る

▶ 学校関係者の考え・想いを知る

(3)児童・生徒の学習の状況確認

▶ 学ぶために必要な環境についての理解

(4)児童・生徒への周知・案内(参加調整)依頼

2. 日向市地域福祉コーディネーター連絡会

日向市地域福祉サポーター連絡会

九州保健福祉大学学生(学生挑戦メンバー)

(1)「ふくし食堂」関係者に対する説明・協力依頼

(2)実践の目的・目標、プログラム検討

▶ ふくし食堂の新たなプログラム開発(防災)

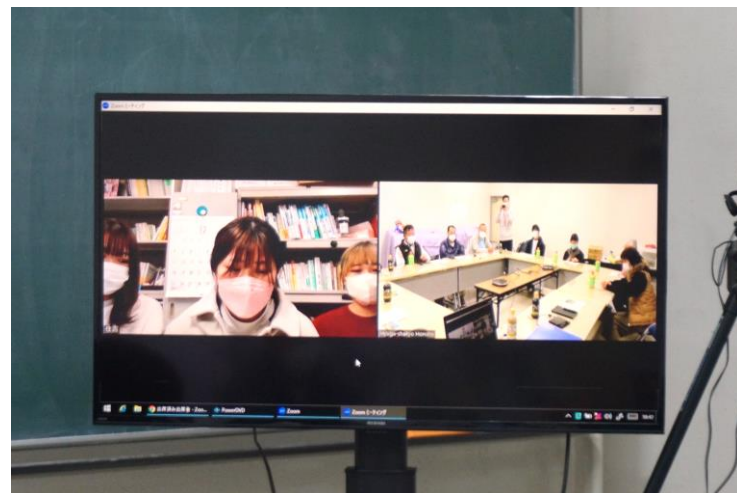
(3)関係者への参加周知、役割分担・支援依頼

3. 日向市生涯学習課(社会教育関係者)

コンソーシアムメンバー／宮崎県生涯学習課

(1)実践プランに対する助言・意見

(2)「ふくし食堂」の周知・案内、参加依頼



学びのプログラム実践というよりは、
「知り合いの関係性」が大事では…
今回の「ふくし食堂」は相互関係を築く！

地域福祉コーディネーターとしての動き

(1)実施時期の調整

- ▶ひまわり支援学校との調整後設定
※新型コロナウイルス感染状況

(2)実施場所の調整

- ▶日向市サンパークオートキャンプ場申請
- ▶ネット環境(Wi-Fi)の確認
 - ▷オンラインによる新たな実践チャレンジ
- ▶安全確認、リスク確認

(3)防災推進課との調整

- ▶障がいのある人を対象にした地域における
防災教育の実施の有無確認 ※仕込み！

(4)ふれあいフェスタでの周知案内

- ▶展示コーナーにて実践の内容を掲示
- ▶「ふくし食堂」チラシ配布

(5)実証実験、事前検証

- ▶ハイゼックス炊飯、オンライン実践検証
- ▶実践展開の修正・調整

(6)必要備品・物品の調達(購入)



令和4年度「共生社会の実現に向けた生涯学習支援に係る実践研究事業」

しょうくどう

ふくし食堂

さいがいいたいおう

災害対応チャレンジバージョン！！

「ともに学ぶ！」

しょう まな しょうがいがくしゅう きかい
障がいがあってもなくても**だれもが学べる**生涯学習の機会のづくりとして、

しょうくどう ぼうさい かつどう おこな
「**ふくし食堂**」防災チャレンジバージョンの活動を行います。

むずか
難しいことはやりません。というかできません。

であ かつどう
「出会い」と「活動」をとあして、**ふ**だんのくらしを**し**あせにするために、

まな あ たか まな ぼ
ともに学び合いながら、一人ひとりのチカラを高める「**学びの場**」です。

いっぽ ふ だ
みんなで「**はじめの一歩**」を踏み出してみませんか？

ひゅうがしちいきふくし れんらくかい
主催 日向市地域福祉コーディネーター連絡会

日 時：令和4年**12**月**11**日(日) 10:00～13:00

会 場：日向サンパークオートキャンプ場

対 象：中学生以上の生徒10名とご家族

申込み：右のQRコードの申込フォーム、
または、お電話からお申込みください。

※参加に係る詳細につきましては、申込受付後、事務局より連絡をさせていただきます。

申込期限 12月5日(月)

電話番号 ☎ 090-9791-9382



【お問合せ】日向市地域福祉コーディネーター連絡会 担当：加藤正憲／成合進也 TEL ☎ 090-9791-9382（加藤 ☎）090-5028-5631（成合 ☎）Mail ☎ hyuga.masanori207@gmail.com



「まずは、やってみよう！」

自然災害などで、いつもとちがう状況になったらどうする？
いざというときのために、「生きるチカラ」を高めよう！

「集う！ 話す！ 動く！ つながる！」
そして、ともに学び合う！」

チャレンジ 1 「火おこし！」

限られた道具・材料で 火 をおこせるか？

チャレンジ 2 「キャンプ飯！」

限られた道具・材料で 食べ物 を確保できるか？

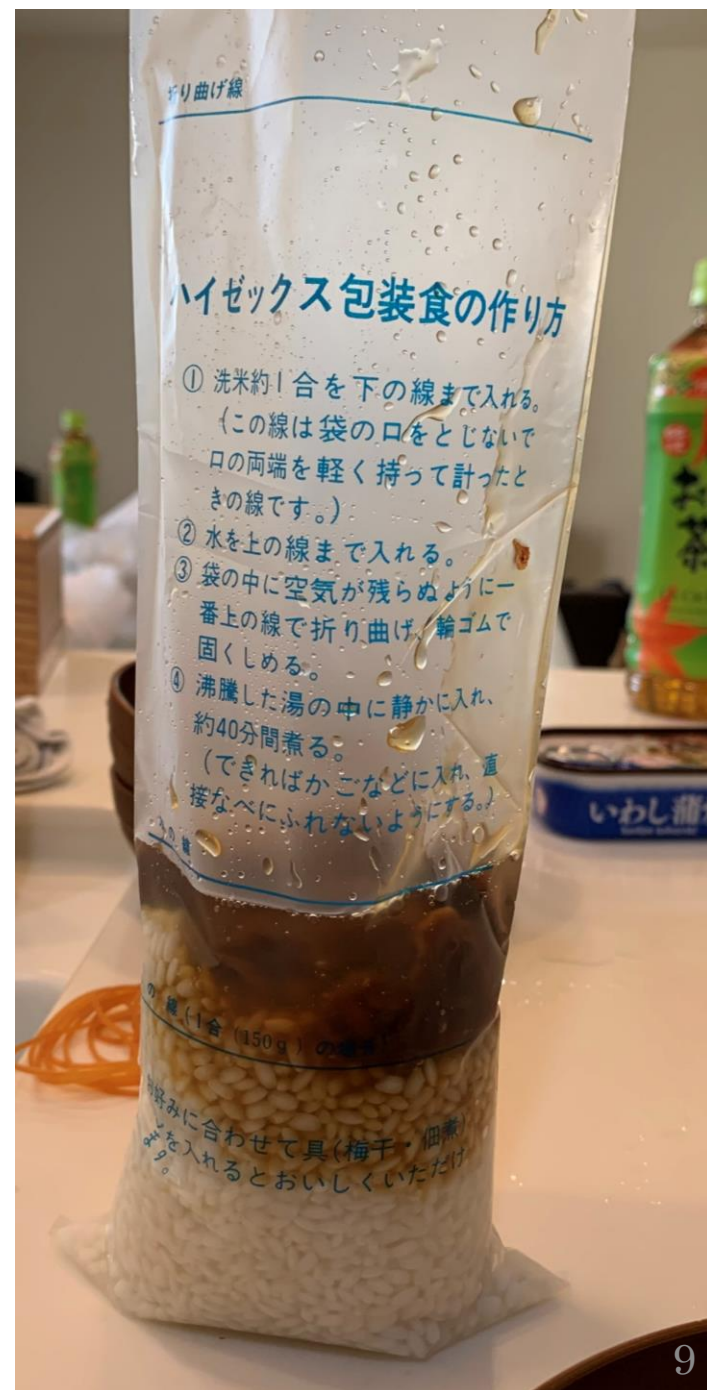
チャレンジ 3 「仲間をつくろう！」

一緒にチャレンジして、ともに学ぶ仲間をふやそう！

当日は、「学びのサポーター」も一緒に活動します。
たくさん「学びの仲間」や「友だち」をつくりましょう。



「うまく火がつかない…」
「ごはんが炊けるかなあ…」



「ふくし食堂」災害対応チャレンジバージョン！

目的(何のために)

- 目的1 「ふくし食堂」の実践を通して、日向市における障がいがあってもなくても学べる障がい特性に応じた「**学びの場**」について考える。
- 目的2 障がいの有無にかかわらず、人と人が「**出会い**」と「**対話**」をとおして、相互に学び合い、理解を深め、よりよい関係性(**知り合いの関係性**)を築く。
- 目的3 地域福祉(生涯学習)**実践ネットワークの充実・強化**を図る。
- 目的4 実践効果(結果)の検証(実践課題の抽出・整理・可視化)を行い、**障がい特性、地域特性**を踏まえた「生涯学習プログラム」**検討の材料**とする。



趣旨目的説明+障がいのある人や家族の想いを知る(障がい理解)



[学習ルール]

集う！ 話す！
動く！ つながる！

そして、
ともに学び合う！

自然災害などで、いつもと
違う状況になったらどうする？

いざという時のために、
「生きるチカラ」を高めよう！

1. グループ編成
2. 自己紹介
3. 火起こし
4. ハイゼックス炊飯
(缶詰レシピ)
5. 試食
6. 片付け
7. アンケート記入
8. 閉会





よき出会い、ふれあい、大変楽しく、ためになりました。自分の知っていること、知らないことなど、新鮮な一日でした。今度はぜひ障がいのある方やその家族の方々とふれあう機会があればもっと良いと思います。まずは関係の方に「出会い」の場を作ってください、ありがとうございました。



お互いを理解する重要性を再認識した。一人の知恵ではなく、グループ内で知恵を出し合うことが大切。どうにかなるのではなく、どうにかする意識で考える。



知らない人と「ふくし食堂」を通じて、仲良くなることができ、おいしくご飯も食べられたので良かった。ご飯をつくるときに、自然仲良くなっていて、うれしかった。

ハイゼックスでのお米の炊き方を学びました。（缶詰と一緒にしないほうがおいしかったかも（笑い）です。）カレーとご飯はめっちゃおいしかったです。みんなとワイワイできたので、とても楽しかったです。



自分はあまり外出する機会がなく、「ふくし食堂」というイベントで、自然や人とのふれあいの楽しさを知りました。また、ハイゼックスでの米の炊き方を知ってよかったです。

Sさんとお友達になりました。これからのことも含め、LINE交換できました。何か特別なことではなくて、いつもの「ふくし食堂」お客様なんてだれもいなかった。みんなが主役です。

障がい当事者であるSさんに参加いただいたことで、今回の取り組みがより効果的になったと思う。ただ、まだまだ何をサポートしていったらよいのかわからないところがある。わかろうとしなくてもいいのか、何かを感じとるだけでいいのか、自分自身の課題が少し見えてきたように感じた。

とても素晴らしい学習に感動です。もっといろいろな人に知ってほしいです。

たくさんの人たちと顔見知りになったことで、久しぶりにいろんな話をする機会になり、とても楽しかったなあと感じています。



障がいがあってもなくてもコミュニケーションは楽しい！今回は、お一人の参加でしたがもっと様々な特性を持つ方とお話したり、活動をとおして障がいについて知りたいです。話すことで相手のことを知れるし、考える機会になるとを改めて学びました。

多様な年代が関わりやすい取り組み方は、とても良かったです。それぞれ年代の人の知恵が活かされる活動がこれからもあると、楽しみながら勉強にもなると感じました。



「ふくし食堂」に参加して、様々な人と関わり、一緒に時間を過ごすことの大切さを感じた。普段、障がいのある方と接する機会があまりなく、最初は緊張したが、表情やジェスチャー等をとおして会話することができとても楽しかった。しかし、障がいがある方といっても、程度や特性は人それぞれであるため、活動するうえでは事前の情報収集や確認を行い、本人が十分に楽しめるような活動を行うことが重要であると思った。

〔成果〕

- ▷多様な世代の参加により、双方向の学び合いの場となった。
- ▷話す、つくる、食べるという活動から相互のつながりを形成することができた。
- ▷「ふくし食堂」の新たな価値を得ることができた。
- ▷実践課題が明確になった。※特性に応じた対応支援の内容
- ▷実践ネットワークの基盤を強化することができた。
- ▷一人の当事者参加が社会を変えることが実感できた。

〔課題〕

- ▶当事者の参加が得られなかった。（関係機関との調整不足）
参加する前の段階の仕込みや調整が必要
- ▶障がいのある人や家族との継続的な関係づくり（知り合いの関係性）
- ▶学習プログラムがあるだけでは学習者の参加は見込めない。
背中を押してくれる信頼できる人の存在
- ▶情報伝達の仕組み・方法（参加への動機づけ）
- ▶学習者の想いや考えを理解できないと自己満足の実践となる。
どのように学習ニーズを把握するのか？
- ▶福祉政策に係る関係者の参加がない（教育福祉の視点から）
- ▶関係機関（組織）の相互の思い合わせ



一人の一步を、これからの一步へ！

**学習当事者の想い(学びたい、チャレンジしたい)を
カタチにする実践を継続します。**

- ▷ひまわり支援学校の児童・生徒の想いを知る。
- ▷想いをカタチにするためのアクションプランを、児童・生徒と共に考え、実行する。
- ▷学校に在籍するときから地域で学ぶきっかけをつくる。